

JACLaP WIRE No. 108 (2008年9月24日発刊)

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞JACLaP WIRE No. 108です。

===== <<目次>> =====

【事務局からお知らせ】 会員動向 (2008年9月5日現在数707名, 専門医 562名)
【新規収載項目】 TRACP-5b

===== <<JACLaP WIRE>> =====

【事務局からのお知らせ】
会員動向 (2008年9月5日現在数 707名 専門医 562名)

【新入会員】

上 裕 俊法 先生: 近畿大学医学部臨床検査医学

佐藤 麻子 先生: 東京女子医科大学病院臨床検査部・糖尿病センター

【退会会員】

須賀 龍治 先生: 東京医科歯科大学医学部 臨床検査医学 (2008年8月11日)

小林 佳美 先生: 医療法人正館会御野場病院 (2008年9月1日)

【本年度の行事予定のお知らせ】

今後の日本臨床検査専門医会の行事予定をお知らせいたします。
開催日時、場所の変更もある場合があります。変更があり次第JACLaP WIRE等でお知らせします。その都度ご確認ください。

平成20年

第5回常任・第3回全国幹事会

11月27日(木) 12時から13時30分
名古屋国際会議場 2号館2階 会議室225

第32回日本臨床検査専門医会総会

11月27日(木) 13時30分から14時
名古屋国際会議場 2号館3階 会議室231 (第7会場)

日本臨床検査専門医会 講演会

11月27日(木) 14時から15時
名古屋国際会議場 2号館3階 会議室231 (第7会場)

演題 「臨床検査による敗血症の重症化予測—早期治療への応用」

演者 岡嶋 研二 先生 (名古屋市立大学大学院医学研究科展開医科学分野 教授)

司会 前川 真人 先生 (浜松医科大学臨床検査医学 教授)

第6回常任幹事会

12月19日(金) 12時から15時
日本臨床検査医学会事務所

【第19回日本臨床検査専門医会春季大会のお知らせ】

開催予定会場: 富山国際会議場

開催予定日時: 平成21年6月12日(金) から6月13日(土)

大会長: 北島 勲 教授 (富山大学大学院医学薬学研究部臨床分子病態検査学講座)

【平成20年度第一回総会報告】

平成20年度第一回総会は5月30日(土)に神戸の臨床研修情報センターにて開催された。

審議事項

第一号議案: 会則改定案 (取り下げ)

第二号議案: 平成19年度決算

第三号議案: 平成20年度補正予算案

第四号議案: 名誉会員の推薦: 黒川一郎, 菅野剛史

有功会員の推薦: 富田明夫, 宮井 潔, 伊藤忠一

第五号議案: 第20回春季大会大会長推薦: 太田俊行教授 (産業医科大学)

第一号議案は先だって行われた幹事会で修正要求が出されたため、取り下げられた。

第二から第五号議案は承認された。

報告事項

1. 日本臨床検査専門医会設立25周年記念行事について

2. 各教育セミナーの実施状況報告

【第18回日本臨床検査専門医会春季大会報告】

第18回日本臨床検査専門医会春季大会は5月30日(金)が神戸ポートピアホテル,
翌31日(土)は臨床研修情報センター(TRI)にて開催された。充実したプログラムが
組まれ、活発な討議が展開された。100名を超える参加者があり盛会のうち終了した。

【日本臨床検査専門医会設立25周年記念行事報告】

日本臨床検査専門医会設立25周年記念行事は平成20年7月18日(金)に東京

ガーデンパレスにて開催された。

第一部として「医療行政と臨床検査」をテーマとした記念セミナー、第二部として

記念式典、第三部として記念パーティーが開催された。

約110名を超える参加者があり、盛会のうち終了した。

【第25回臨床検査専門医認定試験合格者】

平成20年8月2日、3日に第25回臨床検査専門医認定試験が昭和大学医学部でおこなわれ、以下の先生が合格しました。合格おめでとうございます。今後のご活躍を期待します。

(50音順/敬称略、29名中、日本臨床検査専門医会会員28名)

池田 均	岡田 基	小倉加奈子	小山 徹也	菅野 渉平
北澤 淳一	窪田 良次	黒川 敏郎	小池由佳子	鯉淵 晴美
榊原 綾子	坂本 輝彦	佐藤 孝	杉浦 哲朗	高瀬 優
田伏 洋子	東浦 礼	長井 篤	中田 幸子	橋口 照人
藤井 丈士	藤井 康友	古川 泰司	三橋 知明	森信 暁雄
森山 耕成	森吉 美穂	山下 理子	山根 徹	

【WASPALMからのお知らせ】

第25回世界病理・臨床検査医学連合学会 (XXV World Congress of Pathology and Laboratory Medicine) は2009年3月13日から15日の会期で、オーストラリアのシドニーにてSydney Convention and Exhibition Center (Darling Harbour) を会場とし

て開催されます。詳細はホームページ (www.waspalm.org) をご覧下さい。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

最近、住所・所属の変更にもなって定期刊行物、JACLaP WIREなど電子メールの連絡が着かなくなる会員が多くなっています。勤務先(所属)、住所、名称の変更およびE-mail addressの変更がありましたら、必ず事務局までお知らせください。当会ホームページから会員登録票をダウンロードしてそれに記載し、FAXあるいはE-mailでお送り下さい。

【今年度会費振り込みのお願い】

平成20年度の会費納入がお済みでない先生は振込をお願いします。会費振込用紙にはすでに先生のお名前が記入されていますので、勤務先、所属、住所、E-mail addressの変更がありましたら通信欄にご記入をお願いいたします。なお、振込用紙をなくされた先生は、郵便振込口座：00100-3-20509 日本臨床検査専門医会事務局までお願いいたします。年会費1万円。また、ご自身の振込状況が不明な先生は、事務局までE-mailまたは電話 FAXでお問い合わせください。昨年度より過去2年間会費を滞納している先生には、Lab CP、JACLaP NEWS、要覧の発送、JACLaP WIREの発信を停止いたします。悪しからずご了承下さい。

===== << JACLaP WIRE >> =====

【新規掲載項目】

平成20年8月1日より適用

内分泌学的検査

骨型酒石酸抵抗性フォスファターゼ (TRACP-5b)

(準用区分先: D 008 「12」) (区分E-3)

保険点数: 160点 判断料: 144点

製品名: オステオリンクス TRAP-5b

検査目的: 代謝性骨疾患及び骨転移の診断補助並びに治療経過観察時の補助的指標

製造販売元: 日東紡績株式会社 TEL 03-3238-4540

測定法: 酵素免疫測定法 (EIA) 定量検査

包装単位: 96テスト/1キット (2重測定で行う場合、43検体分)

結果が出るまでの時間: 約2時間半 自動化: 不可

検体: 血清およびヘパリン血漿

同時再現性: 15%以下

測定範囲: 0.1~15 U/L (用手法による場合)

参考基準範囲: 健常男性: 1.7~5.9 U/L

健常女性 (閉経前): 1.2~4.2 U/L

【特徴】

骨代謝マーカーは骨吸収や骨形成の過程で骨組織や破骨細胞、造骨細胞から分泌される物質を尿検体や血清検体を用いて測定するものであり、骨粗鬆症や副甲状腺疾患などの代謝性骨疾患、血液透析患者での腎性骨症、癌の骨転移などにおける骨代謝回転の診断ならびに治療効果判定に用いられている。今回保険掲載される骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ (TRACP-5b; tartrate-resistant acid phosphatase 5b) は、破骨細胞に局在する酸性加水分解酵素の一種であり、骨吸収時に血中に漏出され、破骨細胞の細胞数やその活動を反映する。血清およびヘパリン血漿中のTRACP-5bを、抗ヒトTRACP-5bマウスモノクローナル抗体を結合させたマイクロウェルプレートを用いたEIA法により測定する。既掲載の骨代謝マーカーであるI型コラーゲン代謝物の尿中デオキシピリジノリン、I型コラーゲン架橋N-テロペプチド、βクロスラプスは日内変動があるため検体採取時間について注意が必要であり、さらに尿を検体として使用するマーカーは腎機能の影響を受けるためクレアチニンでの補正を要するなど、使用上に制約があった。TRACP-5bは日内変動が小さく、食餌、腎機能の影響が少ないという、これまでのマーカーに比べ利便性の面で優れた特長を有している。また、ビスフォスフォネート治療後1ヵ月

のTRACP-5b変化率は6ヵ月間の骨密度変化率と相関していた。TRACP-5bは骨粗鬆症管理における骨折防止、慢性腎不全患者における骨代謝の急激な変化の発見などにおいて、従来の検査に比較し、より有用性の高い検査と考えられる。

【保険請求上の注意】

ア TRACP-5b定量は、区分番号「D008」内分泌学的検査の「12」のI型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx) 精密測定に準じて算定する。
イ TRACP-5b定量は、代謝性骨疾患及び骨転移（代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る）の診断補助並びに治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に6月以内に1回に限り算定できる。また治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できる。
本検査を「12」のI型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx) 精密測定、「13」のオステオカルシン精密測定、「16」の尿中デオキシピリジノリン精密測定と併せて実施した場合いずれか一つのみ算定する。
なお、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査に基づいて計画的な治療管理を行った場合は、区分番号「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。
(文責：帝京大学 宮澤 幸久)

JACLaP WIRE No. 108 (2008年9月24日発行)

☆発行：日本臨床検査専門医会 [情報・出版委員会]

☆編集：JACLaP WIRE編集室 編集主幹：今福裕司

福島県立医科大学感染制御・臨床検査医学
TEL:024-547-1350・FAX:024-548-6016

☆本WIREの記事購読(配信・停止)・広告等に関するお問い合わせ先

uys-com@umin.ac.jp

☆日本臨床検査専門医会事務局(入会・退会)に関するお問い合わせ先

senmon-i@jaclap.org

☆日本臨床検査専門医会ホームページ

<http://www.jaclap.org/>

☆JACLaP WIRE バックナンバー

<http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

メーリングリスト配信先の変更には

1. 氏名, 2. 現行登録アドレスと3. 変更希望メールアドレスを添えて

uys-com@umin.ac.jpまで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。
